令和　6　年度

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2690600313		
法人名	ヒューマンライフケア　株式会社		
事業所名	ヒューマンライフケア岩倉グループホーム　1F		
所在地	京都市左京区岩倉長谷町193番地		
自己評価作成日	令和6年9月2日	評価結果市町村受理日	令和6年11月6日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先	

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般社団法人　京都ボランティア協会
所在地	〒600－8127京都市下京区西木屋町通上ノ口上る梅湊町83－1「ひと・まち交流館　京都」1階
訪問調査日	令和6年9月25日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

施設での生活をすることになり、今まで外に出かけていたものが出れなくなってしまうことが防げるように、洗濯物を外に干しに行く機会作りや、買い物に職員と一緒に出かけたり、季節によっては散歩に行ったりしている。ガレージには、ベンチを設置しゆっくりと利用者と関われる時間を持ったりしている。また、豆まきをしたり、流しソーメンレク等を施設全体として広い場所での提供が行えている。手作りおやつを作る機会を設けている。食事に関しては利用者様が出来ることをして頂けるように、食材から下ごしらえや盛り付けまで職員と一緒にして頂いている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

閑静な岩倉の地に、介護事業を全国展開されている法人の1拠点として、当事業所が誕生しました。設立後1年という短期間に、自由で闊達な事業所のカラーを打ち出すことに成功しています。天気が良く、運転できるスタッフのいる時には、急遽思い立って平安神宮、上賀茂神社、利用者のもと自宅付近などにドライブをされています。事業所内でも、行事で余ったチョコレートはカップケーキに、残ったご飯はおはぎに、頂いた苺は苺大福に姿を変え、随所に職員のアイデアと発想力が活かされています。また、利用者やご家族参加の運営推進会議では、歯科医を招いて専門的且つ楽しい話をしてもらい、さらに当日は昼食準備の手間を省き、本格的な桶の寿司を取り寄せて利用者には大好評でした。面会や外出、外泊も自由で、比較的制限の少ない生活を保障することで利用者の日常を豊かなものにしています。「為世為人」の経営理念に基づき、法人は自らの足元固めに力を注ぎ、採用者の多くを正職員に登用し、独自の「マイスター制度」で研鑽と給与への反映を図り、サービスの質の向上に努めておられます。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目)　※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)		1. ほぼ全ての利用者の
		○	2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)		1. ほぼ毎日のように
		○	2. 数日に1回程度
			3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)		1. 大いに増えている
		○	2. 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)		1. ほぼ全ての職員が
		○	2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての家族等が
		○	2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどできていない

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	会社の理念を元に各フロアでの理念を考え実践を行うようにしていく。理念に関してはフロアでの会議で話し合いをして決定した。	"「笑顔」と「こころ」いつでも人が真ん中"の法人理念、"為世為人"の経営理念に沿って、「心地よい家　心地良い居場所　心地良い環境」の事業所理念を職員全員で定め、各階のフロア理念とともに事務所内に貼り、実践につなげている。設立後1年未満で、まだ振り返りはしていない。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	利用者と共に買いものに近隣のコンビニやスーパーに出かけている。岩倉地域の消防訓練に事業所として参加した。	地域の店で買い物をするほか、利用者と左京区役所にでかけ、障がい者の作業所の物品購入をしている。小学校でおこなわれる地域防災訓練に参加している。町内会長宅に挨拶に伺っている。地元の寿司屋から出前を取っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議を通じて口腔ケアについての講演を歯科医師にしてもらうことが出来た。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を2か月に1回実施。ご家族様より普段何を食べているかを知りたいと意見があり食事メニューを毎月家族に送付することになった。	地域包括支援センター、民生委員、利用者、複数の家族が参加されている。事業所の行事、事故・ヒヤリハット報告などや日頃の活動状況の写真を見てもらっている。参加者の質問に答え、頂いた意見には真摯に対処し、会議で得た地域情報も活用している。議事録は全家族に配布している。	自治会長さんなどにも働きかけ、今後運営推進会議に地域の方の参加を増やされるよう期待します。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議の議事録を都度提出している。事故報告がある時は書類の送付とわからないときは相談をしている。	地域包括支援センターが開催した防災研修に参加し、能登地震の輪島の被災者当人とリモートで向きあい、災害時の経験や教訓などの情報交換をしている。消防訓練に消防署の立ち合いがある。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	施設内での身体拘束は行っていない。	身体拘束廃止に関する指針を整備し、3か月に1回の委員会を開催している。年2回全職員が個別の動画研修を受けた後、アンケートとテスト及び研修報告書を本社に提出している。夕方帰宅願望のある方には、真に帰宅願望か、他の不安感かを見極め、当面は食事準備を依頼したり、話したり、散歩をするなどして気分を変え、一方で他の解決法も探っている。	身体拘束廃止に関する指針は、重要事項説明書などとともに来所者に見えやすいところにファイルして置かれるよう期待します。

自己	外部	項　目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	外部評価 次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	年間計画としての研修を年間2回行っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在行えていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時に契約を結ぶときにしっかりと説明を行っている。介護保険法が変更になった時も都度家族に説明をし、理解をしてもらい、わからないことがあるときは管理者から再度説明をしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年に1度会社としてのアンケートを実施している。運営推進会議でも意見は出ている。面会時にも職員と話をしている機会が多い。	本社から家族へのアンケートがあり、本社に返送されるが、本社から特に指摘はなかった。運営推進会議では、訪問リハビリなどの導入、投薬に関する要望があり検討している。食事内容を知りたいという意見を受け、全家族にメニューを配布している。入所時に自前のベッド搬入の希望があり、応じている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回のミーティングを行い、意見を出している。常時管理者と職員は、よくコミュニケーションをとっている。	全員が正職員で、会議や委員会、面談以外にも、普段から自由に発言できる環境がある。形式的な書類なしで、ドライブに出たり、ソフトクリームを食べに行ったり、思い付きでおやつレクリエーションをするなど、職員のアイディアと行動力を尊重している。通勤バスの時間が限られる職員のシフト変更もしている。パート職員1名以外に離職者はいない。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	面談をとおして意見を聞いている。日ごろからコミュニケーションをとっている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社内資格制度を活用し介護技術、認知症に対しての理解を深めている。		

自己	外部	項　目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	外部評価 次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	岩倉包括の研修会には参加したが、他施設との交流は現状持てていない。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に本人面談をし、アセスメントをとる際にじっくり話を聞いている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	アセスメントをとる際に本人と家族に対してより深く話を聞けるように職員2人が面談に行き個々で話を聞ける環境を作っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	現状を踏まえて、施設での生活のイメージを作ってもらえるように話をしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家事手伝いをとおして自分たちが出来ることは何かを考えながら毎日の役割としてしてもらっている。食事準備や洗濯物など。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族との情報共有をしている。できる限り面会をできる環境つくりをしている。イベント時はご家族様にも声をかけている。外部の医療機関受診時はご家族様の協力も得ている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	昔からの友人が面会に来られたり、電話と手紙を頂いたりしている。住んでいた家の近所にドライブに出かけたりしている。	左京区内からの入所者が多く、家族や知人の面会が多い。面会時は家族に写真を見せて近況を伝えている。YOUTUBE(動画配信サービス)に合わせて体操や歌を歌うなどしている。絵を描いたり、職員とオセロを楽しまれる方もある。洗濯物を干す、畳む、盛り付けや掃除などの家事も継続されている。美容院は現在全員が訪問理・美容を利用されている。家族との外出や帰宅も自由である。ブログでホームの日常を発信している。	

自己	外部	項目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	レクリエーションを通しての関りを促したり、テーブル配置もお互いの顔が見えるように配慮している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去した後も行先のケアマネジャと連携してどのように過ごされているかの確認を行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人がしたいことの思いを聞いての実践をしている。買い物や散歩、ドライブなど。伝えられない人には選択肢を作り聞いている。	利用者の意向を聞き、ソフトクリームの有名店に行ったり、買い物の要望に応えてコンビニエンスストアやスーパーなどに行っている。おやつ作りや行事などにも希望を反映させている。開設後1年未満で多忙な中、実践に重きを置いたため、本人の得意とすることや望むことをアセスメントに落とし込む作業はしきれていない。	開設後1年未満の間に18名の利用者の面談、入所対応、アセスメント、介護計画作成など多くの事をこなして来られました。これからは内容を深める時期に来ていますので、書類の充実に期待します。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメントの時や家族が面会に来られた時に情報収集をして実施している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	記録を通じて共有をしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ミーティングや家族面会時にいろいろな意見交換をしている。管理者自身が家族との話をすることを心がけそれを職員とも共有をしている。	面会時等に家族の意見を聞き、会議での職員の意見も反映させて介護計画を作成している。家族に6か月ごとの介護計画と3か月ごとのモニタリング結果を説明し、署名を貰っている。週間計画表の「週単位以外のサービス」欄に医師、歯科医、薬剤師、訪問看護師などとの連携体制が記載されている。変化があれば、期間内にも計画を変更している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	職員間での情報共有を日々行っている。		

自己	外部	項　目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	外部評価 次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	職員間で情報共有し、適宜必要な支援を検討している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	施設入居をした後も、近隣への買い物を一緒に行く機会を持ったりしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医や薬局とは、日ごろから密に連絡をとり、情報共有行っている。利用者様の体調に異変等がある際は、適宜かかりつけ医に連絡を取り、受診受け入れをしてくれたり、診察に来て頂いたり、指示を受け対応している。	協力医療機関が事業所近くにあり、内科または精神科の訪問診療月2回と、24時間オンコール体制がとられていることから、協力医に切り換える利用者も多い。家族と他の診療を受診する時は、事業所は医療情報を提供し、受診後の様子を家族から聴いている。訪問歯科医と歯科衛生士が希望者の治療と口腔ケアに当たっている。訪問看護師が毎週来所し体調管理と職員の相談にのっている。現在訪問リハビリも検討中である。緊急時は管理者と主治医とが連携して対応している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に1度訪問看護による体調管理や、状況に応じて、その都度相談も行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は、ご本人の情報提供を病院に行っている。また病院と連絡も取り、早期の退院にも対応している。退院前カンファレンスにも参加し情報収集行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に、看取りの指針の説明を行い、意向の確認も行っている。	開業1年未満で対象者はない。利用者と家族には入所時に「重度化対応及び看取りケアに関する指針」をもとに説明している。また、緊急時の対応や意向を家族に確認している。職員への研修は看取り対応時に事業所内で実施する予定にしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時の対応の仕方は、職員それぞれに不安があったときに相談を受けながら指導をしているのが現状。		

自己	外部	項目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域の避難訓練に管理者と1名の職員が参加している。施設での訓練も災害時はどのようにするかの話し合いを行った。火災時の訓練は年2回行っている。	消防避難訓練年2回及びBCP(事業継続計画)に関する水害想定の避難訓練を年1回おこない、見直しもしている。2月には職員に防災・通報機器の説明をしている。消防署立ち合いの通報、消火、避難の総合訓練では、声掛け、避難人数、空室確認などへの講評があり、次回の訓練に活かすことにしている。水害の避難訓練では、階段を上がるのに時間がかかる事や、上がれない方もあったことから、停電がなければエレベーターでの早期避難も1手段となることを学んでいる。地震の避難は検討中である。備蓄は2階の入り口前や倉庫に水、五目御飯など3日分以上、簡易トイレ、カセットコンロなどを置いている。訓練に地域の方の参加はない。	
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご本人の人格を尊重できるように、出来る事は、できる限りご自身で行って頂いている。	虐待予防やプライバシー研修、認知症KAIGOマイスター制度(法人独自の段位認定制度)などで理論づけをしながら、実践上の利用者との関わり方を職員間で検討している。起床や朝食時間、服を選ぶなどの自己選択権を尊重し、その人らしい生活ができるようにしている。管理者は、職員が常識的なモラルやマナー意識を持って丁寧な言葉使いで対応するよう呼びかけ、必要時は個別にアドバイスをしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご自身で、思いを表出できない方は、選択肢をご提示し、選んで頂くようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	外に出たいと希望が出た時にはできる限り添えるようにしている。職員の都合はできる限りつくらない体制つくりをしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	化粧水や乳液などを塗られていたり、衣類を選んで着ている方もいる。		

自己	外部	項　目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事を作る工程から盛り付けまで一緒にしている。基本的には盛り付けは利用者様が行う。リビングにホットプレートを出しておやつを目の前で作ったりしている。	業者の食材とレシピをもとに、三食とも職員が手作りをしている。利用者は包丁やピーラーでの皮むき、盛りつけ、炒め物の他、お茶を入れる、、お盆やテーブル拭きなどをされている。主にごはん食であるが、パンの希望があれば、利用者と買いに行き、朝はパン食にしている。業者の献立にはおせち料理などの行事食も含まれるが、別に月4回、少し豪華なおたのしみメニューも選べ、誕生日祝いなどに利用している。時には寿司屋の桶寿司をとったり、流しそうめんをしたり、臨機応変に対応している。専用の機械を買ってのチョコレートタワー、残ったチョコでのマグカップケーキ、おはぎなどのおやつレクリエーションも手軽に楽しんでいる。鯖アレルギーの方には、別の魚を提供している。また、咀嚼能力を見て、きざみ食などにも対応している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	記録を通して情報共有をしながら、少ない場合は間で食べてもらったり、飲んでもらうようにする。介助が必要な場合は行う。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に口腔ケアを促している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	必要な方には、適宜トイレ誘導行っている。	個々の排泄パターンに合わせて必要な方には声をかけ、トイレでの排泄を支援している。2階の車椅子の方も日中は介助にてトイレで排泄している。布の下着やリハビリパンツの方が大半だが、オムツ使用の方もある。老人保健施設からの入所者で、リハビリパンツから布の下着に改善された例がある。居室にポータブルトイレを置いている方もある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分量を増やしたり、体を動かしてもらっている。あまりにも出ない人に関しては医師に相談も含めて行っている。		

自己	外部	項　目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	おおむね曜日は決めている方もいるが、体調に応じて日にちを変えたり、本人希望で次の日に入って頂くこともある。拒否のある方には毎日声をかけながら入って頂けるようにしている。	本人の様子や体調を見ながら週2回の入浴を実施している。つど湯を替え、湯量や湯温、浸かる時間の希望にも応じている。シャンプー類、入浴剤は好みの物も使える。季節湯はまだおこなっていない。足浴の方もある。同性介助の希望も極力容れ、職員と1対1で話し、ゆっくり入浴してもらっている。浴槽は可動式で、利用者の状態に合わせて左右に移動できる。足元マットは毎回交換している。入浴を嫌がる方には毎日声をかけ、声かけの職員を変えたり入浴時間をずらすなどの工夫をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご本人の体調に応じて、居室で休んで頂く時間も持っている。室温も配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	お薬情報は、キャビネットにある個人ファイルに保管し、いつでも見る事ができる。薬の変更があった際は、申し送りにて情報共有行っている。ご本人の状況も記録に残している。主治医や薬剤師にも相談や報告を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食事の盛り付けや食器洗い、洗濯物たたみ等、その方の出来る事を、お手伝いして頂いている。食事やおやつのレクリエーションも取り入れている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご本人の希望にて、近隣散歩やコンビニやスーパー、ドラッグストアへ買い物に行ったりしている。利用者様の意見も聞きながら、ドライブやアイスクリームを食べに行ったりもしている。	日常の散歩は、近くの寺や公園などに行き、季節の花見もしている。敷地内で洗濯物を干す、取り入れる、ベンチで歓談するなどで外気に触れている。屋外でラジオ体操をする計画もある。利用者と車でスーパーやドラッグストア、左京区役所の障がい者施設のおやつ販売などに行き、買い物をしている。大原にアイスクリームを食べに行き、以前住んでいた利用者の自宅近くを通ることもある。家族とは通院や買い物、外食、面会時の散歩、外泊などで出かけている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自分自身でお金を管理されている方もいる。職員と一緒に買い物に出掛けられている方もおられる。		

自己	外部	項　目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族やご友人からの手紙が届いた際は、ご本人にお渡ししている。電話を取り次ぐ事もある。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングは季節にあった飾り付けを行っている。キッチンとリビングは接している為、調理の匂いや音も生活の中の一部となっている。	広いリビングは窓が多く明るい。長方形のテーブル3卓、正方形のテーブル1卓、長めのソファが2脚あり、用途により配置を変えている。席は決めていないが、自分でここと決めている方もあり、好きな場所で落ち着けるように職員がさりげなく気を配っている。電子ピアノもあるが、現在演奏する方はいない。白い壁面に利用者と作った葡萄の折り紙が、テレビの横にはチュ―リップの折り紙の束が飾られているが、全体的に過度の装飾はなくすっきりしている。新聞を読み、クロスワードパズル、ぬり絵、レクリエーションや体操、歌などを楽しみ、昼間はほとんどの方がリビングで過ごす。キッチンでの食事準備の様子が見え、音や匂いを感じることもできる。エアコン、加湿空気清浄機で空調管理をしている。清掃は利用者が掃除機や簡易モップをかけ、夜間に職員が水モップをかけている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファーやテーブルの配置や座席を配慮し工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご自宅より、使い慣れた物を持参され室内レイアウトされている。	居室入り口のプレートの記名のほか、鍋敷きなどをアレンジして名札にしている方もいる。介護ベッド、エアコン、クローゼット、防炎カーテンなどが予め備わり、家から布団やカーペット、タンス、時計、座椅子、仏壇、テレビ、往年の自作の絵画などを持ち込み、好みのレイアウトで居心地よく過ごされている。「おてがみBOX」と書かれた箱の中に、お孫さんなど家族の手紙や写真を入れている方もいる。掃除は職員と利用者とでしている。事業所はゆったりとした立地にあり、窓からの眺めや採光は良い。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内バリアフリー。トイレやお風呂も表示あり、見て頂くとわかるようになっている。また居室前にも名前を掲示している。		